


地域課題を体験観光で解決！課題解決と副収入で地域活性化の取り組み。		<b>取組開始時期</b>	2019年	<b>取組の</b> <b>カテゴリ</b>	地域活性化
<b>1. 団体名</b>	一般社団法人 神奈川大井の里体験観光協会	<b>2. 連携先の</b> <b>団体</b>	神奈川県大井町、小田急電鉄		
<b>3. 取組</b> <b>目的</b>	住民が主体となって地域の資源と課題を体験プログラム化。地域の課題解決を目指す。		<b>4. 関連する</b> <b>ゴール</b>		

### 5. 取組詳細（取組内容の詳細及び取組によって得られた成果、今後の方向性等）

**■ 神奈川県大井町相和地区**  
都心から約90分。町の西部に住宅地などがある一方、東部の山間地域にある半分以上の面積のある相和地域は、1/10の人口で1400人程度で、将来的に限界集落となる可能性が危惧されている。



**■ 地域を巻き込んだ取り組み**  
○自然体験活動指導者の育成  
地域全体で「安心・安全」な受け入れ体制を整えるため、これまで地元住民およそ70名が3泊4日の講習会に参加。自然体験活動指導者の資格を取得している。



**■ 集落の高齢化による課題の例**

- ・みかんの木の適果や収穫作業が高齢化で出来ない
- ・季節性の人手不足
- ・竹林が放棄され、里山が荒れる



○地元高校生による地域活性化（ソーシャルビジネス）  
大井町にある高校の生徒が、イベント出展などをフォロー。集落で栽培したみかんと、東京都内の商店街で生徒自ら収穫、販売した。



**■ 集落の課題を体験プログラム化にして商品化**

放置されたみかんの木	荒れ果てた竹林
丸ごと1本収穫体験	竹林伐採体験
みかんアイスづくり （+お土産のみかん）	竹を使った 流しそうめん体験

**地域の課題解決&体験料が地域住民に入る**

**■ 体験を通じた交流人口から地域のファン作り**  
体験は横浜や川崎、都心の家族連れを中心に人気を集めている。リピーターや物販など、交流人口から関係人口もうまれつつある。最近では、企業研修や学校の遠足、関西圏から修学旅行の問い合わせも増えている。




### 取組のポイント（3つの視点）

**地方創生SDGsの視点**

地域に住む人が主体となって課題を認識し、地域の外から人を受け入れることで、一過性ではない、持続可能な取り組みを実現している。地域の資源や課題を生かした体験は、交流人口や関係人口づくりのきっかけづくりになるだけでなく、高齢者の生きがいや経済的な面での地域活性化にも繋がっている。

**ステークホルダーとの連携**

大井町長はじめ、町を挙げて体験観光を推進している。また、将来的に近隣地域との広域的な受け入れも視野に入れ、仕組みづくりを進めている。小田急電鉄も取り組みに積極的で、体験イベントの広告などを全駅に無料掲載するなど、協力を得られている。

**モデル性・波及性**

地域の中だけで解決出来ない課題は、外の人を生かす方法がある。大井町の体験では都市からの参加者が多いことから、「里山ニーズ」は明らかになっている。地域の資源は、地域によって異なるため「十地域十色」。ターゲットを定め、体験とすることで、外の人を巻き込みながら地域の課題は解決出来る。

自由記述欄

今後の目標

- 地域住民体験リーダー 100人
- 宿泊型修学旅行の受け入れ
- 年間1万人の誘客 (3年後に自走化)

高齢化で収穫できなくなったミカン！



昨年も、350名の集客により高齢化で収穫できなくなったミカンを総もぎ!今年度は、回数を増やし地域課題を解決。また、コロナ禍で摘果体験ができなかったので、体験の通信販売も試行し成功。50セットを販売。

一般社団の設立  
大手旅行会社への営業  
シティープロモーション

竹林整備を体験プログラムに!



次々と住民の発想から生まれる体験!



縄文から弥生の土器が見つかったので、石包丁、火起こし、土器づくりの体験

地域住民の体験フェスティバルの開催。初年度650人の体験を実施。2年目は小田急電鉄も協力してくれ、全駅、車両にポスターの掲示。

荒れた竹林や耕作放棄地を体験プログラムとして提供。都会から誘客して、地域の課題解決と副収入の増加を実施し成功している。4月5日には、タケノコ掘りで保全